

分類名 [水稲]

1 平成5年水稲大冷害の実態から得られた被害軽減事例等 (6) 栽植密度と障害不稔の関係 (追補)

農業センター

1) 取り上げた理由

平成5年水稲大冷害において、疎植栽培は標準栽培に比べ不稔歩合が低く減収程度が小さい事例について、普及に移す技術第67号の参考資料「平成5年水稲大冷害の実態から得られた被害軽減事例等(6) 栽植密度と障害不稔の関係」で報告した。この要因を解析するため栽植密度と出穂期及び不稔歩合との関係についての試験を実施した。

その結果、疎植栽培は出穂期がやや遅れ、出穂期間も長くなるという傾向が認められたので、参考資料(追補)とする。

2) 参考資料

- (1) 疎植栽培稲は標準栽培に比べ、出穂期が遅れるとともに出穂期間が長くなり各茎の出穂が集中しない(表1, 図1, 図2)。
- (2) このことにより、疎植栽培では穂ばらみ期冷温による障害不稔を軽減できる可能性がある。

3) 対象地域等

県下一円

4) 特に留意すべき事項

5) 背景となった主要な試験研究

- (1) 研究機関及び担当部科名 農業センター農産部稲作科
- (2) 研究課題名及び研究期間 異常冷温克服のための稲作総合対応技術の確立・平成6～9年
- (3) 参考データ

表1 栽植密度と出穂期及び不稔歩合(平成9年ササニシキBL4号)

栽植 密度 (株/m ²)	出穂 始 (月/日)	出穂 期 (月/日)	穂揃 期 (月/日)	穂揃 日数 (日)	m ² 当たり 穂数 (本)	一穂 粒数 (粒)	m ² 当たり 粒数 (粒)	不稔 歩合 (%)	1.7mm以上 収量 (kg/a)
22.2	7/30	8/ 2	8/ 4	6	364	78.2	28,400	3.7	62.3
16.7	7/30	8/ 2	8/ 5	7	391	82.2	32,100	4.7	64.1
11.1	8/02	8/ 6	8/ 9	8	337	87.9	29,600	4.7	62.0

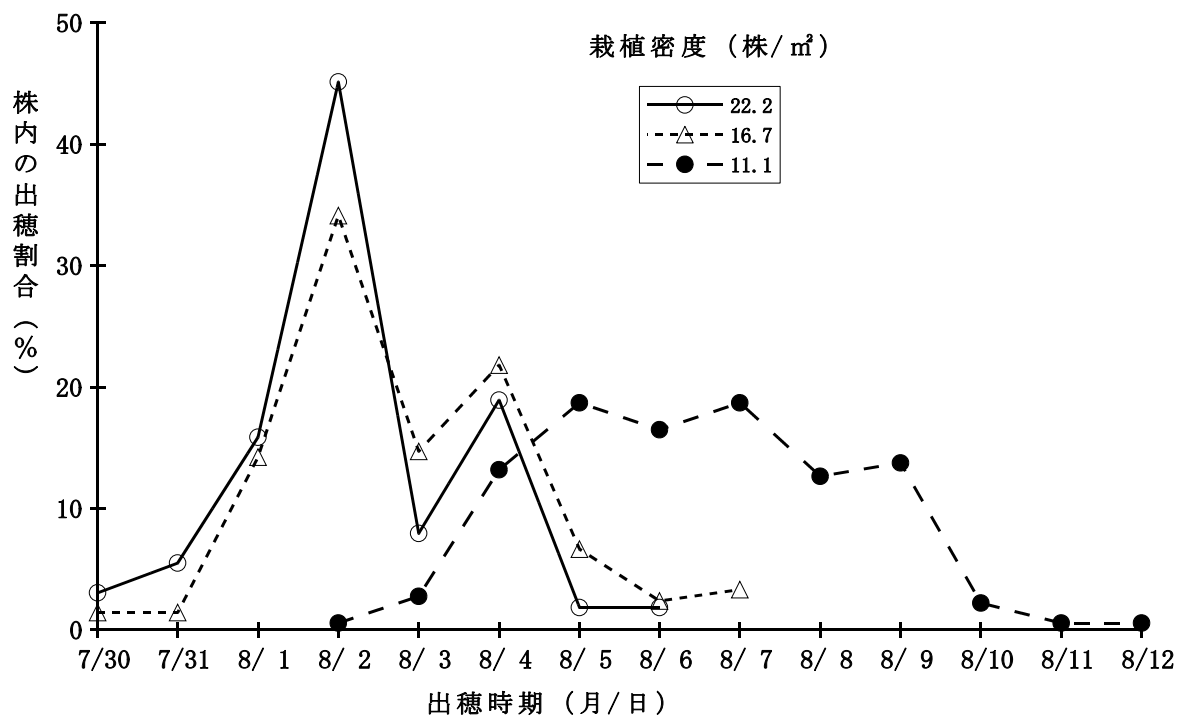


図1 栽植密度の違いによる時期別出穂割合 (平成9年ササニシキBL4号)

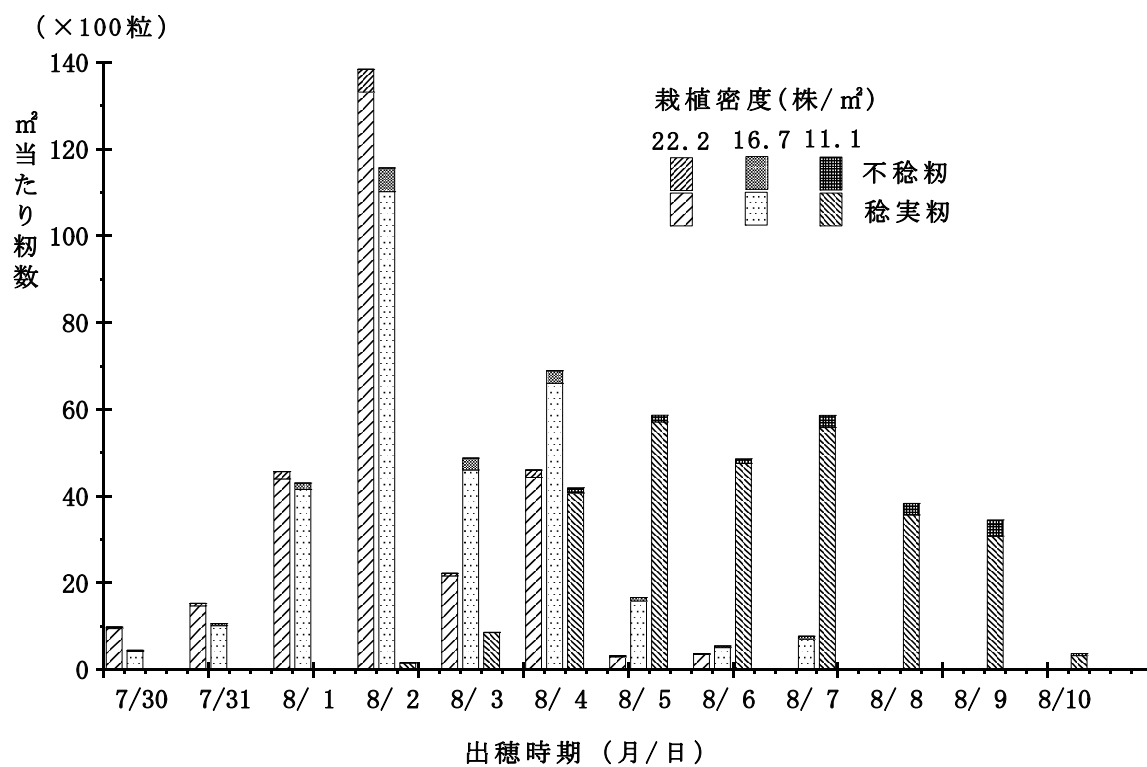


図2 栽植密度の違いによる時期別m²当たり出穂粒数 (平成9年ササニシキBL4号)